

# まよろうこ

2020  
秋号

公益財団法人日本教育公務員弘済会

vol.33

わたしらしく — 巻頭インタビュー —

## 野口 健

特集

### 学びを保障する 「オンライン学習」

小学校と中学校の現場から

— 神奈川県南足柄市立北足柄小学校・東京都墨田区立桜堤中学校 —

### 心に残る子どもたち

岐阜県立岐阜農林高等学校 教諭 山田 伸  
京都府京都市立高雄小学校 校長 坪内 昌子

教職員の健康を応援 〈第2回〉

### 今、新型コロナウイルス感染症で 気をつけたいこと

青木 晃

My Second Life 〈vol.3〉

### 地域とともに子どもたちを 支え続けたい

岸田 久恵



# 被災地域の「まち歩き」案内 宮城県多賀城高等学校



津波標識設置活動



生徒が作成した「まち歩き」マップ

東日本大震災後の平成28年4月に防災・減災を学ぶ災害科学科が新たに設置されました。

フィールドワークを通して科学的に自然災害を研究するとともに、大震災の教訓を次の世代に伝承するため、津波波高標識の設置活動や被災地域を案内する「まち歩き」活動を行っています。防災教育のパイロットスクールとして、全国の高校生はじめ海外の方々にも全校を挙げて「災害から命と暮らしを守る」ことの大切さを発信しています。



県外高校生との災害図上演習



松島浦戸諸島巡検

〒985-0831  
宮城県多賀城市笠神2-17-1

【鉄 道】 JR仙石線「下馬駅」から徒歩15分  
JR東北本線「塩釜駅」から徒歩25分  
【自動車】 仙台東部道路「仙台港北IC」  
または「多賀城IC」から10分

## エベレストから学んだこと

16歳のとき「世界7大陸最高峰登頂」という目標をたて、25歳で達成しました。エベレストは三度目の挑戦での成功です。死の恐怖、進退の判断、スポンサーや応援してくださる方に対するプレッシャー…自分との闘いの連続でした。人間はそんなに強くない。精神力だけではもたないのです。発狂する人や、まだ生々しい遺体が常に身近にある極限環境。「死」は現実的ですぐそこにあり、こちらの隙間に入り込んできて心臓を鷲掴みにして持っていかれそうな恐怖がついて回る。目の前で壊れていく人を多くみました。

だから、5300メートル付近に設営するベースキャンプの空間にはこだわりました。暖色系のカーペットを敷き、和紙のランタンで灯りをともしアロマをたく。食事も手を抜きません。精神のコントロールができるか否か。極限にある人間にとって最も重要なことだと身をもって知りました。

このベースキャンプづくりの経験が、熊本地震のテント村プロジェクトに役立ちました。運営者として約600人の被災者と二か月一緒に過ごしたのですが、日本人は真面目だから、被災した人も応援する人も楽しむことに抵抗があるのです。僕は気持ちが折れることが一番怖いことだと知っているから、どんな極限にいても楽しいことや美味しいこと、心が温くなることを優先したいと考える。テント村で暮らす人たちと知恵を出し合ううちに、鯉のぼりが泳ぎ、すき焼きの匂いがたち、清潔なトイレを置く日本初のテント村になっていきました。テントの高さは、立って着替えができる2メートルを確保。これも体験から得たことです。

エベレストから学ぶことはほんとうに多い。日本隊の残したゴミの多さ。登頂をサポートしてくれるシェルパ族の死の多さと遺族に対する保障の無さ。ネパールの子どもたちの貧困。それは報道されない側面ですね。父はよく、「世の中にはA面とB面がある。A面は放っておいても見えてくるもの。B面は敢えて見ようとしなければ見えないもの。世のテーマは、得てしてB面にある」と言っていました。美しい山々の姿はA面、ゴミだらけの姿はB面というわけです。エベレストや富士山の清掃、様々な基金の設立、子どもたちとの環境学校も、B面を知ったことから始まりました。

## 変化する子どもたち

日本全国の小学校で、「環境学校」を通して子どもたちと関わっています。間伐して明るい森を一緒につくったり、地域の清掃活動をしたり。子どもたちに「環境問題ってなんだと思う?」と聞くと、「京都議定書の6パーセントを守ることです」なんて言う(笑)。データが頭の中だけにあるのです。そんな子どもたちが森で汗を流し、「どうすればゴミはなくなるのか」と捨てる側と拾う側に分かれて本気で議論したりするうちに、変わっていきます。環境問題を自分の言葉で話せるようになっていく。現場で体験することでしか得られない自分の言葉。一人ひとりのスピーチを聞くたびに、子どもたちの変化は頼もしいと感じます。

僕のように、外部の人間が教育現場に入ることがもっとあっていいと思いますし、子どもたちには現場でリアルな体験を積んでほしい。生き抜いていくための「勘」のようなものも磨かれていきます。

# 野口 健

現場を知ることから  
全てが始まる



## PROFILE

### 野口 健 のぐち けん

アルピニスト。1973年8月21日、アメリカ・ボストン生まれ。亜細亜大学卒。

高校時代に植村直己氏の著書『青春を山に賭けて』に感銘を受け、登山を始める。1999年、エベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。2000年からはエベレストや富士山に散乱するごみ問題に着目して清掃登山を開始。2007年エベレストを中国側から登頂に成功。近年は清掃活動に加え、地球温暖化による水河の融解防止にむけた対策、日本兵の遺骨収集活動などにも力を入れている。2015年4月、ヒマラヤ遠征中にネパール大震災に遭遇。すぐに「ヒマラヤ大震災基金」を立ち上げ、ネパールの村々の支援活動を行う。2016年4月に起きた熊本地震においては、避難所としてのテント支援を行い、テント村の設置、運営などもおこなった。

主な著書に

『あきらめないこと、それが冒険だ』(学習研究社)

\*第53回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

『落ちこぼれてエベレスト』(集英社)

『世界遺産にされて富士山は泣いている』(PHP研究所)

写真集『野口健が見た世界 INTO the WORLD』がある。

公式ウェブサイトは <http://www.noguchi-ken.com/>

# 学びを保障する

## 小学校と中学校の現場から

世界中を襲った新型コロナウイルス感染拡大により、教育の現場に新しい動きが始まった。

「オンライン学習」だ。

本誌夏号においても述べたように、GIGAスクール構想は前倒しとなり補正予算の拡充も行われたが、3月～5月の一斉休校により、端末やICT環境整備に加え、遠隔教育の急速な必要性から文部科学省は新たな措置を講じることとなった。（「学びの保障」総合パッケージ2020.6.5）

文部科学省の4月16日時点の調査によれば、休校中にオンライン授業を行っていた公立学校はわずか5%（同時双方型・授業動画をつくった学校10%）だった。

日本の教育は、国際的な学習到達度調査PISA

（OECD）では高い水準にあり、国民の識字率や学力も非常に高い一方で、デジタル機器利用率の調査ではかなり低い部類に属する。学習以外のインターネットやチャット利用は世界的に高い水準にあるにもかかわらず、学習利用されることが極めて少ない状況にあることも日本の大きな特徴であることが明確になった。

7月10日に公表された「2019年度文部科学白書」でも、経済協力開発機構（OECD）の調査に参加した48か国・地域の中で、日本は下から2番目だったことに触れ、「後塵を拝する状況だ」と危機感を表明している。加えて、日常生活の中でICT（情報通信技術）を使うことは「新たな時代のスタンダード」であると指摘。学校教育の情報化を早急に進めることが不可欠で

### 新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の「学びの保障」総合対策パッケージ ー全体概要ー

#### あらゆる手段で、子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障

感染症対策を徹底しながら、まずはしっかりと学校での学習を充実

最終学年（小6・中3・高3）は優先的な分散登校等も活用し、学習を取り戻す

他の学年は、2～3年間を見通した教育課程編成も検討し、着実に学習保障

#### ◆授業を協働学習など学校でしかできない学習活動に重点化し、限られた授業時数の中で効果的に指導

個人でも実施可能な学習活動等は授業以外の場で実施。 ※ 教科書発行者の協力により、学習活動の重点化等に関する参考資料を「子供の学び応援サイト」に掲載

#### ◆最終学年以外については、指導事項の一部を次年度以降に移す特例的対応を可能に

#### ◆人的・物的体制の緊急整備（第二次補正予算案に計上）

教員加配（3,100人）、学習指導員（61,200人）、スクール・サポート・スタッフ（20,600人）の追加配置。

※ 退職教員や大学生等に協力いただくための学校・子供応援サポーター人材バンク開設

感染症対策や学習保障のために迅速かつ柔軟に活用できる経費を1校あたり100～500万円支援。

※ 感染状況や学校規模等に応じて配分

#### ◆ICT活用によるオンライン学習の確立

端末、モバイルルータ等を特に家庭でICT環境を整備できない子供向けに優先配置。秋以降、第二波に備えて優先すべき地域の学校でオンライン学習が可能に。

※ 全国での学校現場サポート体制等を通じて、教職員向け研修やオンライントレーニングを提供

※ 今後、学習履歴の活用などを含めた、個別最適化された学びの実現についても検討していく



#### 授業日数イメージ

※ 中学校3年生の例 ※ 最終学年以外については、特例的に次年度以降を見通した教育課程編成を可能としており、そうした措置も含めて教育課程を検討し、教育活動を展開  
※ 5月まで臨時休業が行われた学校におけるイメージ（実際には、地域の感染状況や児童生徒や学校の実情に応じて各自治体及び学校で判断）

通常の1年間の平均的な授業日数：200日程度



# 「オンライン学習」

あると強調した。

今後、新型コロナウイルス感染症以外にも、地震や台風などの自然災害によっても教育が分断されることなく、全ての子どもたちに「学びの保障」を確立するためには、オンライン教育・授業は必要不可欠のものとなるだろう。そして、新学習指導要領に則った、子どもたちを誰一人取り残すことのない「個別最適化した学び」と、「主体的・対話的な深い学び」の実践に向けての取り組みも、新型コロナウイルス感染症の第二波第三波を見据え全国の教育現場で進んでいる。

今回は、神奈川県南足柄市立北足柄小学校と、東京都墨田区立桜堤中学校の事例を通し、オンライン学習の現状と課題、そして今後の可能性についてみていきたい。



## 神奈川県南足柄市立 北足柄小学校の取り組み

右:北足柄小学校 藤澤恭子 校長  
左:市教育委員会 遠藤友樹 指導主事



「足柄山の金太郎伝説」で全国的に知られる南足柄市は、神奈川県西端に位置し、足柄山を越えれば静岡県という人口4万人ほどの自然豊かなまちだ。昔から地域住民は教育に協力的であり、学校と地域の関係が常に近いという風土がある。2016年(平成28年)から新たに箱根ジオパーク(地球に関わる様々な自然遺産を見どころとする公園)に仲間入りし、豊かな自然・歴史・文化などの地域の資源を生かした教育も盛んだ。南足柄市はまた、神奈川県で初めて公立小学校・中学校の全校全教室に無線LAN環境を整備した自治体である。2020年度末までには、「GIGAスクール構想」の助成による一人一台学習用端末配布の整備を進めている。小6・中3の児童生徒へのe-ラーニング(非同期型)も並行して進めているところだ。

南足柄市オンライン学習のモデル校となった北足柄小学校は、児童数22名、教職員数15名の小規模校。市教育委員会では、ここでの成果と課題を検証し、2021年度には市内9校の小中学校へオンライン学習を広げていく計画を策定している。

具体的な取り組みについて、北足柄小学校校長の藤澤恭子氏と教育委員会指導主事の遠藤友樹氏にお話を伺った。

### 民間企業と連携しスタート

「4月から5月にかけて、(株)教育ネットと連携し、インターネットを活用した市内全家庭を対象としたアンケート調査を行いました。(株)教育ネットから、この経験を生かした社会貢献事業として、Zoomの有料アカウントを使ったさらなる取り組みはできないかと相談があっ

たのです。(株)NTTドコモからLTEモデルのタブレット端末を30~40台ほど無償で貸与してもらえることになり、この端末が子どもたちや教職員に行き渡る小規模校の北足柄小学校に、モデル校としてイニシアチブをとっていただくということになりました」と、市教育委員会指導主事の遠藤氏はオンライン学習スタートの背景を語る。

そのタブレット端末を使用したオンライン学習の取り組み期間は、5月21日~6月末。主に使用するソフトは、Google G Suite for Education(課題の配布、提出やビデオ通話)、Zoom(ビデオ会議)、Safari(インターネットブラウザ)とした。

### 試行錯誤の授業づくり

まず実施したのは、教育委員会、連携企業による北足柄小学校全職員を対象とした事前研修だった。藤澤校長は、「一番デジタルが苦手なわたしに分かるように」が基準だったと笑う。突然の休校で不安になっているであろう子どもや保護者へのコミュニケーションを第一と考え、子どもたちと双方向で繋がることのできるZoomを中心としたオンライン授業の準備が始まる。



始めた当初は、「授業者」「授業の様子をタブレット端末で映す担当者」「子どもたちの映像をタブレット端末で授業者に見えるように提示する担当者」という三人体制でスタートしたが、タブレットを持ち続けると映像が安定せず、子どもたちに伝わりにくい。同時に、授業者が子どもたちの反応を見るには、タブレット画面では小さいということも分かり、改善を重ねていった。



画面を安定させるために理科の実験用スタンドを代用し、タブレットを固定して教材を映し、プロジェクターで子どもたちの顔を大きく映し出し表情を確認しやすしました。



しかし、実験用スタンドの足が障害となって、映したい物の位置を調整できない。

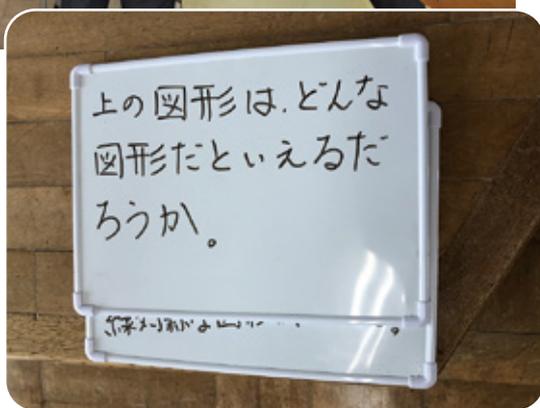
次に登場したのは、「書画カメラ(書類向けの実物投影機)」。カメラ付きPCにつなげば、ストレスなく映すことができる。試行錯誤を繰り返し、書画カメラ・スクリーン・プロジェクター・カメラ付きPCを、低学年用にか所、高学年用にか所固定でセットし、授業者は交代で使用するスタイルを確立。一人での授業づくりが可能となった。



藤澤校長は言う。「教師たちは一生懸命でした。新型コロナウイルス感染症拡大によって、急に子どもたちと会えなくなり、子どもたちはどうしているのか、自分たちに何ができるかを突き付けられました。子どもたちと会えない辛さをオンライン学習の可能性に賭けて、みんなでいい授業を創ろうと団結しましたね」。

「従来の対面授業では、言葉以外のボディランゲージも含めて子どもたちに伝えることができますが、オンライン授業においては教師の言葉が伝える大きな手段になります」。教師同士が言葉を互いにチェックしあい、曖昧さや間違いがあれば直す。的確な「言葉」をつかうことに全員で注力したという。そして、教師からの発問

が伝わりやすいように、ホワイトボードも使用。オンライン授業を終える毎に改善点を話し合った。



6月から学校が再開。午前だけの登校とした再開後2週間もオンライン授業を継続した。兄弟姉妹であっても一人一台のタブレットは貸与したが、同時に使うとハウリング(不快な音が発生する現象)してしまったり、起動したときに生活音が聞こえてしまったりなど、慣れるまでは発見と改善の連続だった。

また、Zoomでは、話す人だけがミュートをはずすことが多い。北足柄小学校は、敢えて全員がミュートをはずし、子どもたちのつぶやきや子ども同士の会話を自由にできるようにした。何気ないつぶやきの中に、子どもの本音や疑問が隠されていることがあるからだ。「子どもたちの自由な会話や何気ないつぶやきが、授業づくりの大きな力になりました」と藤澤校長は語る。保護者からは、「授業の時間割のおかげで一日のメリハリができました」、「朝、きちんと起きられるようになりました」など、子どもの生活リズムが整ったことへの感謝の声も多く寄せられたという。

## 家庭の協力によるアクティブ・ラーニングの継続

北足柄小学校は日ごろから「説明学習」に力を入れている。説明学習とは、学校で学習した一日の内容を、子どもたちが各家庭で説明することをいう。相手に伝わりやすいよう、話す順番や言葉を整理し、保護者からの質問に答えたり、「なるほど」「すごいね」という反応をもらったりすることで学習がさらに面白くなっていく。学ぶことに興味や関心が向き、家族や地域の方に話すことにより対話的な学びにも繋がっている。そして子どもたち自身によるアウトプットのための工夫は、理解の定着とともに、思考し表現する深い学びを生み出す。

しかし、臨時休業措置の間は、プリントやドリル、教育関係の番組視聴等によるインプット活動が多くなる。学んだことを誰かに教えることがさらなる学習につながるという道筋をオンライン授業ではなおさら大切にしなければならぬと、学習したことや、発見したこと、自分の意見を話す「説明学習」を、休校中も継続できるように、学校だよりを通じて家庭での協力をあらためて保護者に依頼した。

子どもたちが楽しみながら学びを深めていくには、家庭の協力が欠かせない。それがひいては、新学習指導要領の実践へもつながっていく。

## 双方向学習と一方向学習 見えてきたそれぞれの利点

オンラインによる双方向授業は、22人の子どもたちが全員出席する「朝の会」の後に、学年ごとに30分区切りの時間割を作成。20分程度を学習にあて、残りの5分で振り返りをした。

限られた短時間でのオンライン授業を充実させるため、教師たちは従来の授業とは違う指導計画や教材作成が必要となった。前述の試行錯誤の授業づくりのように苦労もあったが、それは授業力向上につながり、子どもたちもまた、相手に正確に伝えるための工夫が求められることから、説明力と言語能力の向上につながる授業内容となっていた。これは、複数人で同時に学習できる双方向授業の大きな利点だ。教壇に教師が立ち、全体を見渡ししながら授業を進める従来学習に近

い効果がある。

一方で、「双方向でなくてはならない場面と、一方向で確実に伝える場面を明確に分ける必要が生じたことも新しい発見でした」と藤澤校長は振り返る。子どもたちへの課題の配付・提出にはGoogle Classroomというソフトを使用した。タブレットのカメラ機能を使ってQRコードを読み取れば、学習動画を何度でも繰り返し視聴ができる。感染予防のために授業を見合わせている楽器の演奏を家庭学習で支援することもでき、英語の聞き取りや言い方の練習にも有効だったという。一人で学習していくことを基本とする一方向型の学習は、子どもたちの自立の上に成立する学習方法でもある。自立には家庭や教師による個別の支援が欠かせないが、子どもの興味や好奇心を促す教師の適切な指導と評価があつてこそ、能動的な一方向型学習が成り立ち、主体的な学びにつながっていくのであろう。オンラインにおいての双方向型授業と一方向型授業。それぞれの利点をうまく組み合わせることで、子どもの個性にあった学びへの道筋がみえてくる。

### オンライン学習の推進軸は、 アナログなチーム力

オンライン授業を実践することに目が行きがちだが、オンラインの可能性を追求していく目的は、あくまでも子どもたちの学びを保障することにある。公平性が求められる公教育にあつて、オンライン学習環境に差が生じないよう教師によるアナログな支援も欠かせない。北足柄小学校でも、子どもたちの学びの場所となる家庭環境を把握し、保護者の仕事の都合で授業を受けられなかった子どもには、電話で学習内容を伝えたり、次のオンライン学習を始める際に、復習を丁寧にした。また、再生機器が家庭にあるかを確認した上で、学校のホームページにアップしている外国語の授業を録画したDVDを担任が届けるなど、きめ細やかな対応をしている。Zoomでのオンライン授業時も、電話番号一覧を手元に置き、画面に入ってこなかったりすればすぐに電話をかけた。

「新しい教育を目指すとき、日ごろの人間関係や職場の空気がいかに大切かということも今回感じた大きなことです。教師同士が助け合い、改善し合い、よりよい授業をつくっていくためには、お互い時には耳の痛

いことも言わなくてはなりません。ICT教育、オンライン学習を主体である子どもたちのために運用できるか否かは、実は日頃のアナログな教職員同士のつながりや、頼りになる外部の方々との気持ちのいいチームあつてこそだと思います」。藤澤校長は、オンライン学習を進める基盤は、日ごろの信頼関係がつくる職場のチーム力だと語る。教育委員会の遠藤指導主事もまた、「教育委員会も、飯山教育長が背中を押してくれたからこそ、市として新しい実践に取り組みめたと思います」と行政の協力の重要性を説く。教育現場と行政の両輪のチーム力は、子どもたちへと還元されていく。

### 学校ごとのオーダーメイドの必要性

北足柄小学校の実践研究を検証した教育委員会は、今後、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各校で家庭と連携したオンライン学習をする際には学校ごとのオーダーメイドが必要になると考えている。規模や地域性、校長の意向等、学校の特色を生かして画一的ではないオンライン学習の有り方を見極めていく。遠藤指導主事は、「ICTありきという発想ではなく、今までの教育活動をより充実させていくためにICTで何ができるかを一緒に考えたい」と語る。「今後、より情報量が増え、子どもたちは情報処理の勉強も必要になってくるでしょう。情報に負けない学びをどうつくるか。これまでの授業文化や、先生方が築いてきた授業技術が根っこになることを確認しつつ、段階を踏んでICT教育を進めていきたい」。自治体、教育委員会、学校の連携と民間企業の協力でスタートを切った南足柄市のICT教育。モデル校となった小規模校・北足柄小学校の、「チーム力」と「地域とともに」進めるオンライン授業実践からみえてきたことは多い。



## 東京都墨田区立 桜堤中学校の取り組み

桜堤中学校 窪宏孝 校長

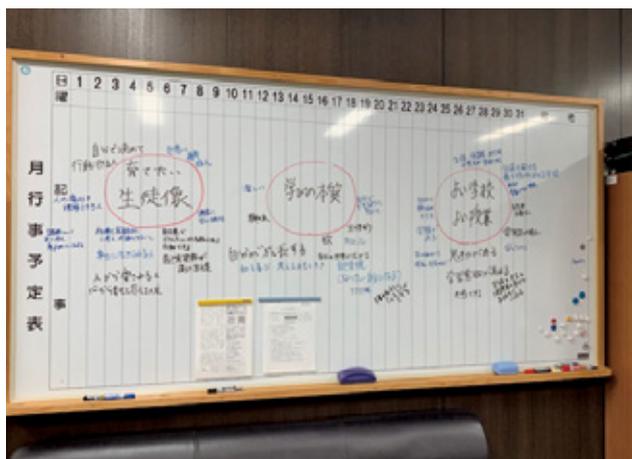


東京都墨田区立桜堤中学校が今、注目されている。生徒数471人。8年前に新設され、区内随一の広い運動場とICT設備を有する中規模校だ。何より、教師たちが熱い。窪宏孝校長を筆頭に、コロナ禍においても「学びを止めるな」と様々な創意工夫が日々行われており、教育環境の有効な活用を図った特色ある教育活動が展開されている。

2018年には墨田区の研究奨励校・ICT教育推進校として、タブレット端末を240台導入。ロイロノート・スクール(タブレット端末用の授業支援アプリ)を活用して授業改善をし、2020年度は「特色ある学校づくり推進校」として、主体的・対話的で深い学びをさらに実践するため、ICT機器をより積極的に活用する。全教科において全教師が、授業の中でタブレット端末や様々なアプリケーションソフトを活用し、授業から部活動に至るまで、自由に且つ効率的にデザインしている。オンラインによる自主的な学びは相互理解を深め全体の学力向上にも良い影響を及ぼしていると、桜堤中学校の授業実践評価が高まっているのだ。

校長室には、教師たちの自筆による「育てたい生徒像」「学びの本質」「よい学校よい授業」のイメージが書かれた黒板がある。黒いマジックは若手教師、青いマジックは中堅からベテラン教師が書いた文字だ。ここに書かれた教師たちの視点を基に、次年度の教育計画を練っていく。「どんな状況下であっても、学びの質を高めたいのです。各教師がイメージする教育活動を擦り合わせて計画を作成し、教師一丸となって取り組みたい」。窪校長は続ける。「子どもたちを知る教師がやりたいと思うことは、どんどん取り入れます。例えば、Qubena(キュービナ)は、子どもたち一人ひとりの習熟度に合わせ

て最適な問題を出題する、AI(人工知能)を搭載したタブレット端末用の教材です。アダプティブラーニング(適応学習)とも呼ばれる教材で、近年注目されているIT技術を活用した教育サービスEdTechの一つです。蓄積されたログを解析することで弱点を明確にし、生徒一人ひとりに最適化されたコンテンツを提供、効率的に学習を進めていくことができます。今年度は、EdTech導入補助金(経済産業省)を利用して数学の導入を決めました。個別最適化AI教材の積極的な導入により基礎・基本の定着時数を圧縮して、学び合い・創造的な授業時数を生み出し、子どもたちの主体的な学びのために役立てたいと考えています」。



### 創意工夫にあふれる授業づくり

コロナ禍の臨時休校期間で実践された具体的な授業についてみてみよう。

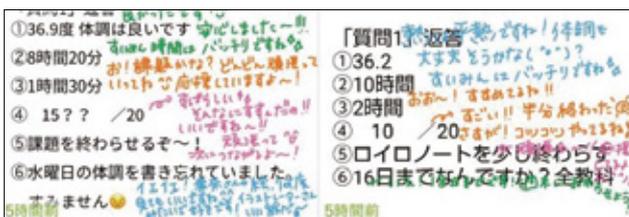
ロイロノート・スクールをベースに、双方向での授業づくりを行った。主な柱は、①朝の連絡・健康確認、②学

習課題の配布・提出・支援、③部活動の連絡・健康確認の3つ。

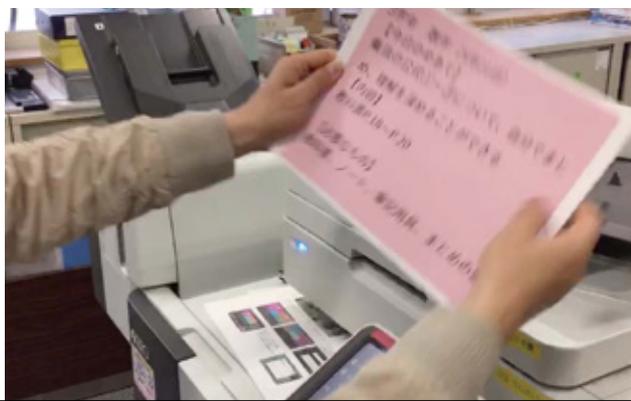
例えば①では、教師からの質問を一斉配信する。質問は6項目で、次のような内容だった。

- ①今日の体温と体調は？
- ②昨日の睡眠時間は？
- ③昨日の学習時間は？
- ④配信されている授業は20時間中いくつか終わりましたか？
- ⑤今日の一言
- ⑥質問・悩み

子どもたちは質問事項に記入し、教師に返信。それに教師が手書きで評価や意見等を添削し、また返信する。教師による手書きのコメントに注目したい。枠一杯に、色文字で「すごい!」「素晴らしい!」など、子どもたち一人ひとりに合わせた励ましの言葉が綴られている。

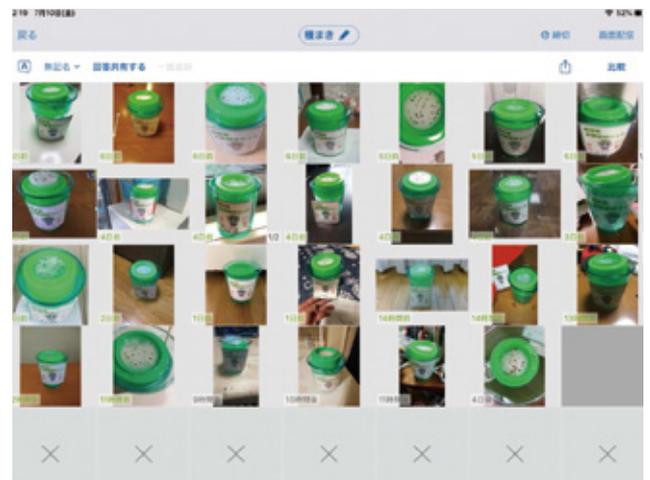


「色は大切です。プリントもそうですが、カラーとモノクロだとカラーの方が断然子どもたちのやる気が出ます」。そう語るのは、ICT授業を牽引する岩井洋平主任教諭だ。家庭にWi-Fi環境がない子どもには、ロイロノートをORPHIS(オルフィス)のGD9630という業務用の高速プリンターでカラー印刷し、速やかに各家庭に配布した。「本校ではすべてオンデマンド型の双方向授業を試みました。これは反転授業にもつながり、教師が個々の生徒に合わせた指導ができますし、生徒が他の生徒と協働しながら取り組むアクティブラーニング、そして補習や不登校生徒にも有効だと考えています」。



スクールをベースとして、eライブラリアドバンス、eboard(イーボード)、NHK for Schoolといった学習コンテンツを活用。教師間の連絡や会議は、Office 365のMicrosoft Teamsを使い職員会議はチャットで行った。教師も子どもたちも、徹底したICT活用とカラープリント課題でコロナ禍の休校を乗り切っていた。

技術科の霜田俊和主幹教諭は、3年生のオンライン授業で植物の栽培記録を実施。タブレットで写真を撮り、変化を記録した。評価のポイントは、植物がどこまで生長したかではなく、「なぜ上手くいったのか、枯らしてしまったのなら何故失敗したのか」という分析ができたかとした。



理科の須永健一主任教諭は、教師自身を模したキャラクターをつくり、コメントが入りながらワークシートの中で授業が進んでいく。コメントは板書と同様の位置づけとし、子どもたちはワークシートの一部を写す。週一回、書いたものをオンライン上で提出させ、本人確認のために氏名も書かせた。そしてまた質問箱を設け、タイムラインで質問を受けられるようにし、リアルタイムでの回答に努めた。

数学科の前田憲章主任教諭は、子どもたちがiPadを使って協力し合い、四則計算の問題と答えの解説作成に取り組んだ。ホワイトボードを使って問題を説明する班、動画を作って答えを解説する班というように班分けをし、子どもたちがグループごとに協力し合える体制をつかった。この授業は、iPadを初めて使う1年生の授業。動画編集の方法を学習することを含め、3時間の授業でここまでできたことに驚いたという。アクティブラーニングとICTの親和性は思ったより高いことも実感した。

部活動でもiPadの活用が続く。「コロナ禍で軒並み大会が中止となり、心が折れそうな3年生は特に心配だったので、子どもたちと繋がることに重点を置きました。まずやったのは、家庭でもできる練習メニュー動画です。陸上部では筋肉トレーニングの動画と質問を送り、生徒が返信した内容を生徒同士で見られるよう設定しました。休校明けも、バレーボール部ではレシーブやアタックの模範動画や練習動画を配信し、自分や仲間のプレーを見てフォームを考え学ぶことに集中できる課題を出しました」。登校した子どもたちには、レシーブの形が変わっているなど、随所に変化があったという。

### 教師の資質向上のために

新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、教師一人ひとりが優れた授業力を身につけなければならない。そのために2年前から導入している方法論が「改訂版・タキソミー」だ。

「タキソミー」とは、「分類学」という意味の単語。1948年にアメリカのベンジャミン・サミュエル・ブルームの研究グループが開発した教育の目標を分類したものを「ブルーム・タキソミー」といい、子どもたちの認知過程を段階的に「知識」「理解」「応用」「分析」「総合」「評価」の6つに分類した。この分類を表にしたものを「タキソミーテーブル」という。人が学習して

いく際の段階を、分類したものと言える。

そして、認知過程の6段階の分類を「記憶」「理解」「応用」「分析」「評価」「創造」に改訂し、さらに知識という軸を加えたのが、「改訂版・タキソミー」だ。知識の軸（縦軸）は、事实的認識（特定分野の基礎知識や単語）、概念的知識（特定分野に関する原則や理論）、遂行的知識（技術や方法論）、メタ認知的知識（自分の認知過程についての知識）の4つに分かれている。これに認知過程（横軸）を加えて、二次元マトリックス表になっている。

これを活用して、子ども一人ひとりの認知過程の次元と知識次元をタキソミーテーブルに落とし込み可視化していく。桜堤中学校では、全教科で単元目標に沿ったタキソミーテーブルを作成し、研究の成果は令和元年度「視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会」の分科会でも発表された。主体的に学ぶ子どもを育むためには、学校全体で組織的に取り組むことが有効だということも証明され、桜堤中学校の取り組みは勢いを増していく。

今年度新たにスタートした「デジタル・タキソミー」は、授業デザインをさらに進化させていこう。タキソミーテーブルで可視化された子どもたちの教育目標の分類の、どこでICTを活用することが有効かを実践研究し、子どもの学びの個別適切化をより深めていく計画だ。

保護者からの評価も高い。オンライン授業による生活リズムの改善や学習意欲の維持と向上がみられ、支援

### 教育目標の分類学（ブルーム・タキソミー）

ブルームの教育目標分類学  
【認知的領域】  
(Bloom, B.S.他)

- ① 知識 情報や概念を想起する
- ② 理解 伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
- ③ 応用 情報や概念を特定の具体的な状況で使う
- ④ 分析 情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
- ⑤ 総合 様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
- ⑥ 評価 素材や方法の価値を目的に照らして判断する

改訂版ブルーム分類学 (Anderson, L.W.他)

知識次元	認知課程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事实的認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

## デジタル・タキソミーテーブル

デジタル・タキソミーテーブル (学習目標×ICT×評価)		認知過程次元 (学びの深さ)					
		① 記憶する	② 理解する	③ 応用する	④ 分析する	⑤ 評価する	⑥ 創造する
A 知 事 実 的	学習目標	①-1 Unit 0-1の単語、表 現を覚える。	①-2 三単現の意味や使い 方を理解する。				
	学習者の動詞	英文を記述する。 発声する。	理解する。 問題を解く。				
	ICT活用	実物投影機 (教員が提示)	デジタル教科書 実物投影機 (教員が提示)				
B 知 識 的	学習目標	②-1 三単現を含む本文を 読む。	②-2 三単現を含む本文の 内容を理解する。	③-1 三単現を用いた英文を 書くことができる。			⑥ 三単現を使った自然な 会話ができる。
	学習者の動詞	音読する。 復唱する。 朗読する。	翻訳する。 説明する。 要約する。	明確に述べる。 質疑する。			想像する。 会話する。
	ICT活用	デジタル教科書 実物投影機 (教員が提示)	デジタル教科書 実物投影機 (教員が提示)	ロイロノート 英文のタイピング (生徒)			i Padを使用し動画 を撮影し、記録し成長 確認
C 知 手 続 き 的	学習目標			④-2 自分の英文の内容を相 手に伝えることができ る。	④-1 道具の英文の改善点を 分析できる。		
	学習者の動詞			明確に述べる。 質疑する。	対象を照らし合わせ る。 指摘する。		
	ICT活用			ロイロノート カード作成 音声録音(生徒)	i Padを使用し、単 語などのチェック分析		
D 知 メ タ 認 知 的	学習目標		⑤-3 自分の英文を見て、音調の高低を 説明する。			⑤ 改善したことで、より相手に伝わり 易い英文ができる。	
	学習者の動詞		比較する。 意見する。 説明する。			編集する。 再構成する。	
	ICT活用		i Padを使用し、単 語などのチェック分析			ロイロノート 英文のタイピング (生徒)	

の必要な子どもや不登校の子どもたちも自分のペースで家庭学習に取り組み、教師への質問も出るようになった。体調が悪く欠席した子どもも、ロイロノートによって学習の遅れを気にすることがなくなったという。

「コロナ禍で、オンライン授業をやらざるを得ない状況が続きましたが、子どもたちの学びを止めないための取り組みが加速したと思います。オンラインによる家庭学習と対面授業のハイブリッド教育を、今後も子どもたちと一体となって進めていきます」。ICT教育を牽引する東京都墨田区立桜堤中学校の、取り組みを更に推進していく決意は固い。

## 取材を終えて

新型コロナウイルス感染拡大によって加速が急務となったオンライン学習だが、校長をはじめとする教師たちの「何としても学びを止めない」という熱意が、学校のチーム力を高め、その力が新しい学びを創り出すという点は2校の大きな共通項だった。そして、市(区)長、教育長も授業研究に参画するなど、自治体との強い連携がその推進には欠かせないこともわかったことの一つだ。

そして、オンライン学習が、従来授業の代替手段として

の応急措置ではなく、変化の激しい時代に向かう子どもたちにとって、主体的・対話的で深い学びとICTを連携させた継続的な学習手段になるということもみてとれる。教師に求められる、授業デザイン力、ファシリテーション力も高くなるだろう。家庭や地域の協力も、学校の規模にかかわらず今後はより必要になってくるはずだ。これはテクノロジーではできないことである。文部科学省も、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」、「科学的に思考・吟味し活用する力」、「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」が重要であると提言している。

世界で加速するオンライン学習。アメリカでは、キャンパスそのものが存在せず、世界中の学生が全てオンラインで講義を受講するという「21世紀のエリート大学」が6年前から稼働している。学生寮は世界7か国を移動し、学生たちは世界各地で地元企業やコミュニティでのインターンなどを経験する。

これからは、オンラインとオフラインを効果的に組み合わせた「ハイブリッド教育」が必要になると同時に、「どうやったらオンラインでも普段と変わらない授業が行えるか」という技術論ではなく、「オンラインで何を実現するか」という学校ごとの明確な選択が、society5.0時代へ向かう子どもたちの道標となっていこう。

# 心に残る子どもたち

## 一生懸命はかっこいい



山田 伸

岐阜県立岐阜農林高等学校 教諭

前任校の岐阜県立加茂農林高等学校に勤務していた時、ダルモ・マイケル君という生徒に出会いました。

彼は、7歳の時に来日したフィリピン国籍の生徒でした。彼が高校2年生の時です。私に「先生、自分の力を発揮できるすごい大会があります」と電話をしてきました。インターネットで見つけた『全国高校生 マイプロジェクト アワード』という大会でした。締め切り間際だったのですぐに応募の手助けをし、関西大会への出場を果たしました。更に彼は、全国大会決勝にも駒を進め、2つの賞を受賞しました。私にとっても衝撃的な思い出となりました。

発表の中で彼は「日本に来た頃は言葉が分からず心を閉ざしていたこと」や「来日後に育った美濃加茂市のいろいろな方から支援を受け、その恩返しを目的にプロジェクトを始めたこと」を発表しました。当初、そのプロジェクトへの参加について父親からの理解が得られず、私は片言の英語で必死に理解してもらおうと掛け合ったこともありました。そんな父親も、この大会の後が一番の理解者となってくれました。ジブラルタ生命保険(株)などが主催する『ボランティア・スピリット・アワード』という大会で、3年前に彼が文部科学大臣賞と米国親善大使に選ばれた時には、その快挙を共に喜び称えました。

その翌年、彼が親善大使としてワシントンD.C.で発表し、家に帰ってくる途中のことです。私は、所用で学校近くのJR美濃太田駅に向かいました。そこで偶然にも彼のご両親と出会い、帰国する彼が間もなく駅に到着することを知り、3人で彼を出迎えました。彼の高校卒業後に起きたこの偶然の再会も、必然に

思えるくらい一生忘れることのできない自慢の生徒です。

私は、彼が名古屋市立大学に進学した後も彼のプロジェクトの支援を続けています。また、彼が高校在学中に手がけた、地域の名産品である『堂上蜂屋柿』と『柿渋』を広める活動を後輩が引き継いだ後も、彼には後輩に対する継続的な指導を依頼し、先の2つの全国大会へはその後2年連続で出場することができました。小学生の頃、なかなか日本の生活に馴染めず人一倍苦労してきた彼であるからこそ、力になりたいと私は思ってきました。

今年、彼はニューヨークでの発表の準備をしていましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で延期となってしまいました。彼の座右の銘は「一生懸命はかっこいい」です。彼の発表で必ず出てくる言葉です。私も、新型コロナ対策に追われ気持ちが沈んでしまう時がありますが、その度にこの言葉を思い出し、自分自身を励ましています。

今、改めて彼に伝えたい言葉があります。

「君に出会えて、本当に良かった」と。



## 「先生。ありがとう」

### 坪内 昌子

京都府京都市立高雄小学校 校長



修了式を終え、ホッと一息ついていた春休みのある日。私は、突然校長室に呼ばれ、6年生の担任を打診されます。子育てでしばらく高学年を担当していなかった私は即答できず、校長室に重苦しい空気が流れます。

この6年生の担任を引き受けるには、勇気と覚悟が必要です。5年生の時のS君と彼の仲間たちは非常に活動的で、学校内の立ち入ってはいけないところからは出沒するし、屋上の立入禁止区域に集団でたむろし見つかり、校長室に親子で呼ばれていることもあるし…その時の様子がぐるぐる頭の中をめぐります。なのに、困難なことがあると変な正義感が芽生え火中の栗を拾いに行ってしまう厄介な自分の性格に勝てず、4月から私はS君の担任に就任します。

S君は長期休暇中には一緒に住んでいない大好きな父親と旅行に行くこともありましたが、自由に会うことはできないジレンマに苦しんでいるようでもありました。もうひとつの苦悩は、進学塾に通い、有名私学中学校の受験。後に思い返すと進学した高校を中退したことから、S君自身が希望していた進路ではなかったのだろうと想像がつきます。父親と遊んでいる時が一番楽しく、学校ではどこか孤独で、その孤独をごまかすために暴れていたような気がします。給食を食べ終わり食器を返しに行っている間に、教室では取っ組み合いのけんかが始まることも。時には短気なS君が感情を抑えられず机を投げていることもありました。

私自身、自分の力の無さが情けなく、正義感だけで行動しようとする自分が嫌になることもありました。

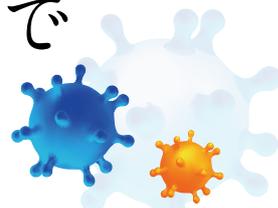
逃げるわけにもいきません。あの手・この手と模索しながら6年生の児童と夢中で生活するうちに、私の必死さが伝わったのでしょうか。学級がまとまり始めたのです。卒業するころには子どもたちのその日のエピソードを職員室で笑って話せるようにまですました。S君と話すとき必ず登場するのは父。父親のことが好きで、本当は彼のようになりたいと語ってくれたことも。

そして卒業式の前日、S君が言った言葉を今でも忘れることができません。「先生。ありがとう」。私は「何が?」と聞きましたが、S君にはそれ以上の言葉を付け足しませんでした。言葉が続かず涙がこぼれました。「元気でね」。やっとかけた言葉は、ありきたりな言葉でした。今も、あの時の幸福感が忘れられず、教師という職を追いかけています。





# 今、新型コロナウイルス感染症で 気をつけたいこと



あお き あきら

青木 晃

銀座よしえクリニック都立大院院長  
元順天堂大学大学院加齢制御医学講座准教授

1961年、東京都生まれ。防衛医科大学校医学部卒。人生100年時代に不可欠な予防医療である抗加齢(アンチエイジング)医学の専門家。自衛隊中央病院医官時代に、NBC(核・生物・化学)兵器の防御・治療、危機管理のプロフェッショナルとして活躍。1995年3月の地下鉄サリン事件においては聖路加国際病院に自衛隊医官として派遣され、即座にサリン中毒と診断し、現場で的確な初期治療を行い多くの人命を救助したことで知られる。

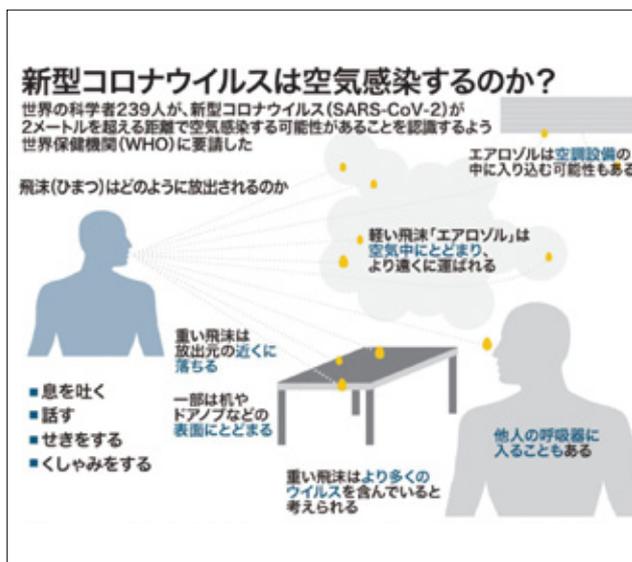
この原稿を書いている7月末現在、第2波とも言われる感染拡大が日本全土を騒がしています。5月25日の緊急事態宣言解除後、このまま収束も見えてきたかという時期を経て、6月11日には東京アラートが解除、6月19日には休業要請全面解除されると6月末からは東京都などではPCR検査数の増加に伴い、PCR検査陽性者数が指数関数的な増加傾向を見せてきているのが現状でしょう。まだまだwith CORONAの中で、日本国民は新たな生活様式を模索しつつ生きていかねばならない状況にあるのが現実です。

この状況を日本だけではなく、世界的な視点から見ると、世界のほとんどの国がコロナのない、いわゆるゼロリスクの世界を諦めて、このウイルスと共存していく道を選んできています。日本政府も感染爆発による医療崩壊を起こさない感染拡大防止を基本的な方針とし、社会経済を止めない戦略に舵を切りました。今のところ世界各国との人の行き来は大きく制限されていますが、数か月以内にはそれも解除されていくわけですから、日本だけがウイルスフリーを目指すのは非現実的です。

ゼロリスクの世界を諦めた場合、現存するリスクをどの程度に見積もって社会生活を戻していくかは非常に難しいところがあります。また、その線引きのレベルは今後このウイルスの医学的な背景(感染パターンや治療・予防法など)が解明されるにつれ、変わってまいります。日本においては新型コロナウイルスの感染力は季節性インフルエンザと同等かそれよりも少し高いレベルで、現在の新型コロナウイルス感染症の発症者死亡率は、日本では0~69歳で0.01%、70歳以上では40倍の0.4%です。死亡者の90%は、60歳以上で40歳未満の死亡者は4人。(因みに欧州は0~69歳で0.05%、70歳以上が2%とされています)。季節性インフルエンザの致死率は、0.05~0.1%で、コロナの5~10倍です。これらの数値や考察に関してはその他、諸々の説もありますが概ね似たようなものです。つまり、新型コロナウイルス感染症に関して注意を要するのはやはり高齢者や基礎疾患を持つ方々への対応処置となります。院内感染や高齢者施設内感染、地方過疎地の高齢者が多い地域、高齢者と同居している家族の家族内感染などへの対策は万全にすべきでしょう。

致死率も欧米に比べるとかなり低い(この点についてはファクターXとして原因の究明が模索されています)ので社会経済を止めることなくウイルスと共存していく方法をしっかりと見つけていくことが肝要です。今回は、日常生活において感染拡大防止のために着目すべき点について述べてみたいと思います。

まず、これまでに分かっている新型コロナウイルスについて、知っておくべき医学的背景を解説しておきます。このウイルスは当初は普通感冒のコロナウイルス(4種類ある)同様に感染者の鼻汁に多く存在すると考えられていましたが、自衛隊中央病院、長崎大学、米国エール大学<sup>1)</sup>などの研究報告から、鼻汁同様、唾液にも多く存在することがわかってきました(そのため、PCR検査を唾液で行う方法が承認された)。これは感染患者<sup>2)</sup>はもちろん、無症状感染者<sup>3)</sup>でも認められています。このことは大きな声での会話や外食、歌を歌うなどの際に非常に重要なポイントとなります。食事の際にはマスクを取って飲食せざるを得ないですし、唾液の量も多くなっています。会食では無言で食事することは無く、会話が弾みます。食事中や会話、歌唱の際に唾液の飛沫が飛び、この飛沫中にかなりの量のウイルスが存在していれば、感染源となりうるからです。



出典: Morawska, Milton - It is Time to Address Airborne Transmission of COVID-19

普通の会話時や食事中に飛沫が生じることは、咳やくしゃみによる飛沫ほどは広く知られておらず、そういった際に生じる直径30 $\mu$ m未満の飛沫の意義はこれまであまり問題とされていませんでした。しかし、米国NIH支部の国立糖尿病・消化器病・腎臓病研究所(NIDDK)の研究者らの最近の報告によると、1分間大声で話すと、ウイルスを含有する少なくとも1,000粒の飛沫粒子(直径4 $\mu$ m程度の大きさ)が8分間を超えて空中に留まり、その量はそれらを吸い込んだ周囲の人に感染を誘発させるレベルであるとのことでした<sup>4)</sup>。同研究者らは、発語している際の飛沫散布を撮影した結果をNew England Journal of Medicine誌にも報告している<sup>5)</sup>、その実験では、布マスクをして話せば前方への飛沫の発散を抑えられることが示されています。一方でマスクの隙間から出ていく呼気の87%を占める1 $\mu$ m以下のエアロゾルも感染性を有する<sup>6)</sup>というエアロゾル感染(飛沫感染と空気感染の中間的な感染様式)説を唱える研究者もいます。

すなわち、近距離での会話や食事は、飛沫感染やエアロゾル感染のリスクが高くなっていることを理解しておかなければなりません。空気の流れが少ない密閉空間では特に注意が必要です。もちろん、感染者の口から出た粘性のある大きな唾液飛沫が、テーブルや食器、メニューなどに落下すると接触感染の原因となります<sup>7)</sup>ので、手指や環境のこまめな消毒や清拭もこまめに行う必要があります。

新型コロナウイルスのもう一つの面倒な特性は、発熱や倦怠感、咳などの症状が出る直前から強い感染力があること<sup>8)</sup>や、感染していても症状がほとんど無い無症候性感染者も多く存在するということです。感染者が多く出ている地域などでは、誰もが不顕性感染している可能性があるわけなので、常に自分が感染者であると想定して行動するように心がけないといけません。



それでは、外食時などに留意すべき具体的な感染拡大防止対策について述べてみたいと思います。下線部分に関しては必ず実践、実行するようにしてください。

- 店に入る際に、勧められなくても**必ず手指消毒**を
- メニューを手にした後は、手指消毒する(させてもらう)か、おしぼりで手を良くふき、そのおしぼりは下げてもらう
- **マスクは飲食開始ギリギリまで着用し、デザートが終わったらまた着ける**
- **発声・発語は控えめ**にして、口に食べ物が入っている際には、なるべく下を向いておく
- 人と会話したり、物を食べていて正面を向く際には、ハンカチかナプキンを口の前に持つてくることで多少は飛沫拡散を低減させることができる
- 真正面に人がこないように配席をしているお店が多いが、客がそれを無視して対面座りして大声で唾を飛ばして話をしていることが多い(特に酔っ払っていると)
- **フェイスガードはマスクの代わりにはならず**、エアロゾル(マイクロ飛沫)は近辺に最低でも8分間は浮遊してしまう
- カウンター席は、客同士は比較的安全だが、正面にパーティションがない場合は、大きな飛沫がカウンターを超えてカウンター内の皿や料理にかからない様に客側が注意する(カウンター内のスタッフはフェイスシールドを着けることで、カウンターの客からの直接の比較的大きな飛沫を防ぐことができる)
- カウンター席で酔っ払って、結局は向き合って大声で話をしてしまっているなどということがないようにする
- トイレでは必ず**便器の蓋を閉めてフラッシュ**する

- トイレでの温水洗浄便座の使用は控える
- トイレを出たら、アルコールで手指消毒をする
- 滞在時間が30分~1時間以内であれば、マイクロ飛沫感染のリスクはかなり減るが、**1時間以上になる場合は換気がしっかりなされている空間かどうかを確認する**
- エアコンの風向きには注意する(風上に感染者がいて会食している場合、風下にマイクロ飛沫が溜まるような環境は危険)
- 爪楊枝、カトラリー、調味料などが出しっ放しにしてある店は要注意(接触感染は比較的少ないとされているが店の意識の低さが問題)
- 瓶ビールや日本酒のお酌はしない(全て手酌かテーブル内ソムリエを一人決めてその人間が全て行う)
- **大皿料理の取り分けはNG**なのでお店側に小皿に取り分けた物を持ってきてもらう(もちろん直箸禁止)
- お会計は現金、カード、タブレット端末、何であれ接触感染のリスクがそこで生じるので、終わったら確実にアルコール消毒を行う(客側、店側共に)

### 対面での取り分け料理は要注意！



これ以上の感染拡大を何としてでも防がないといけない現時点では、上記レベルのことに留意することが望まれます。

1) Wyllie et al. <https://www.medrxiv.org/content/10.1101/2020.04.16.20067835v1>  
 2) Chan JF, et al. J Clin Microbiol. 2020 Apr 23;58.  
 3) Wolfel R, et al. Nature. 2020 Apr 1. [Epub ahead of print]  
 4) Stadnytskyi V, et al. Proc Natl Acad Sci USA. 2020 May 13.

5) Anfinrud P, et al. N Engl J Med. 2020 Apr 15.  
 6) Fabian P, et al: PLoS One. 2008;3(7):e2691.  
 7) 白木公康, Web医事新報.No.5004, P30 2020 Mar 18.  
 8) He et al., Nature Med. 2020 Apr 15.

## 地域とともに子どもたちを 支え続けたい

小学校教師定年退職と同時に「猫の足あとハウス」を開設した  
岸田久恵さん

都心から西へ電車で約30分。西東京市の住宅街に「猫の足あとハウス」はある。一階は無料の塾。二階は若者たちの自立支援のための個室が5部屋。小中学生が学び、20歳前後の若者たちが力を蓄え巣立っていく一軒家だ。

「定年の5年前、55歳の時に自宅の8畳一間で無料の塾を始めたのです。毎週月曜日、中学3年生だけ。定員は5名でした」。元小学校教師で「猫の足あとハウス」を運営する岸田久恵さん(65)は、当時をそう振り返る。「主人は中学の教師でしてね、娘が大学生で息子は受験生。家族一丸となって子どもたちを教えました。私は食事づくり担当。1限目と2限目の間に、みんな一緒にいろんな話をしながら食事をしました」。

自宅で、しかもなぜ中学3年生に限った無料塾だったのか。「リーマンショック後の2009年頃でしょうか。夏休みになると給食がなくなって痩せる子がいると、子どもの貧困問題が取り上げられるようになりました。私が勤めていた小学校でも、給食費を一週間待って欲しいという声や、一着の運動着を着まわしている兄弟がいましたね。子どもは一着しかないことを言わなかったけれど、全校生徒で運動会の練習をしたときに兄の方の子は運動着を着ていなかった。それで発覚しました」。一方で、年間100万円以上も塾の費用が払える家庭があることに課題意識をもった岸田さんは、子どもの貧困についての調査を続け、自分にできることは何かを考え続けた。

「中学3年生で、中卒で働くか都立高校に進むかが決まります。データにもありますが、高校に進学しないと就職率は低いし年収も低い。中学3年生は人生を決める大切なときなのです。そして、貧困は孤立を生みます。子どもの食事もコンビニ食ばかりだったり、いつも一人だったり。だから自宅で食事もつくろうと決めました。勉強はまず食べることから。みんなと一緒にお腹いっぱい」。

無料塾と食事提供を始めて4年が過ぎた頃、近所で住宅開発が始まった。毎日通勤の行き帰りに目に入ってくる。自宅から約40メートル。あと一年で定年というときだった。夫に言った。「買いたいなあ」。

「買えるなら買えば」。岸田さんは即行動を起こした。退職金と貯金(夫の分も)を足せば何とかなるかも。「結果、有



り金全部はたきました(笑)」。それから一年後の2016年3月、「猫の足あとハウス」が完成した。

2019年3月からは、同じ西東京市内で「猫の足あとハウス2」がスタート。こちらは空き家を借りた男子専用の自立支援ハウスで、岸田さんの息子さん(26)を中心に運営されている。「娘や息子が、入居者の



開設時の記念写真  
前列4人が岸田さん家族

姉兄のようになってくれます。成人式のときは娘の着物を着たり、一緒に買い物に行ったり。主人は今も中学で数学を教えています。よく子どもたちの勉強をみてくれますよ」と岸田さん。今も家族一丸は続いている。そして地域も行政も動きはじめ、多くの個人や団体に支えられるようになった。「勉強は教えられないけど、おかずを一品持っていくわ」「食材は任せて」「空き家があるのだけど」「こういう仕事がありますよ」等、支援の輪が広がり、行政からも講演を依頼されるように。「定年したとき、もうちょっと休んでおけばよかった」と笑う忙しさだが、岸田さんに後悔はない。

「ここで学んだ子が、教える側になって帰ってきてくれることもあるし、教師になった子もいます。教えられる側と教える側という立場を超えて繋がるのが嬉しいし、地域っていい循環を生み出すのよ。みんなここで暮らしているのですから」。

これからの夢は、「西東京市は若者が住みやすいところらしい」と若者が集う街にすることと、地域の自治によって運営されていく支援ハウスを増やしていくことだ。

2011年、家族4人で自宅の8畳一間から始めた無料塾は2018年にNPO法人となり、2021年2月に開設10周年を迎える。

### ■ご支援等に関するお問い合わせ先

NPO法人 猫の足あと

<https://nekonoashiato.jimdofree.com/>  
[nekono2017ashino@gmail.com](mailto:nekono2017ashino@gmail.com)

代表：岸田 久恵

## 日教弘 給付奨学金

当会の給付奨学金は、国民に開かれた公益事業を拡充し、社会貢献に一層努めることを目的に、2006年から開始した事業です。その対象は、修学意欲がありながら、学費の支払が特に困難と認められる高等学校等（高等学校定時制課程、同通信制課程、中等教育学校の後期課程並びに特別支援学校の高等部、高等専門学校第1・2・3学年、専修学校高等課程、及び本会が特に認める学校を含む）に在学するもので、返還義務のない給付金の支給により、経済的な支援を行っています。

初年度は1,785名に1億4,377万円を給付しました。年々給付の規模は拡大し、昨年度は7,386名に5億5,000万円の給付金を支給しました。

給付金額は、1名あたり、原則として50万円以内です。

給付者は学校長が都道府県支部へ該当者を推薦し、支部選考委員会で選考後、理事長が決定します。

### 給付奨学生からの声をご紹介します

私は今回の給付奨学金を利用して、参考書を数冊、学校での教科書、副教材それぞれの購入と、受験する大学の学校見学を数校させていただきました。これにより、私にとって少々難解であった学校のいくつかの教科の授業を学校外の参考書で理解し、また学校での説明不足な項目に関しても、より一層理解を深めることが出来たように思います。そして学校見学では、私の履修を希望する機械工学を私の望むような形で、また環境で学ぶことが出来ると考えた大学を見つけることが出来、ますます勉学に励むことが出来る糧となりました。具体的には、在学中の成績は苦手教科の点数を平均程度に上げることが出来、また志望を東京工業大学へと決定しました。

しかしながら、私は受験した志望校に合格することは叶わず、前期試験の失敗を取り返そうと臨んだ後期試験では、志望校ではない大学でしたが合格しました。しかし私は是非志望する大学への進学を希望し、今一度捲土重来を期して浪人し、より一層の努力を胸に再度挑戦しようと考えています。

この奨学金は、私にとって将来の夢を決定する大きな一歩を踏み出すきっかけとなり、また諦めずに進もうと決意させてくれた、非常に有益なものであったと考えます。

思ような成果を出すことは叶いませんでしたが、私は必ずこの奨学金を役に立て、邁進していく所存です。

(A.M)

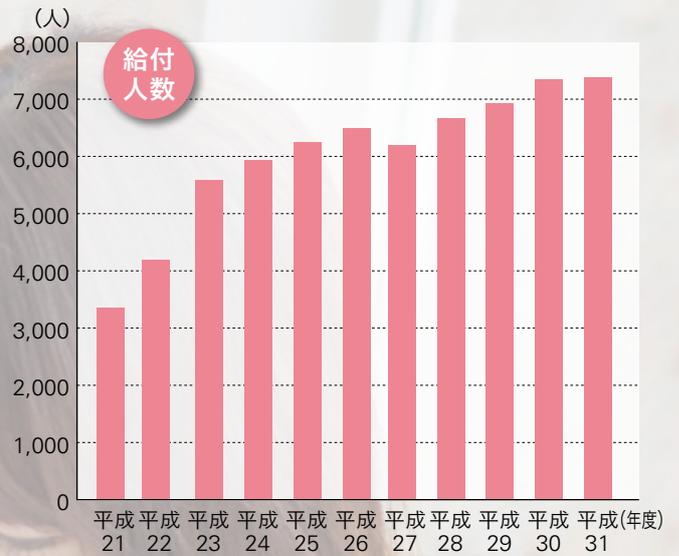
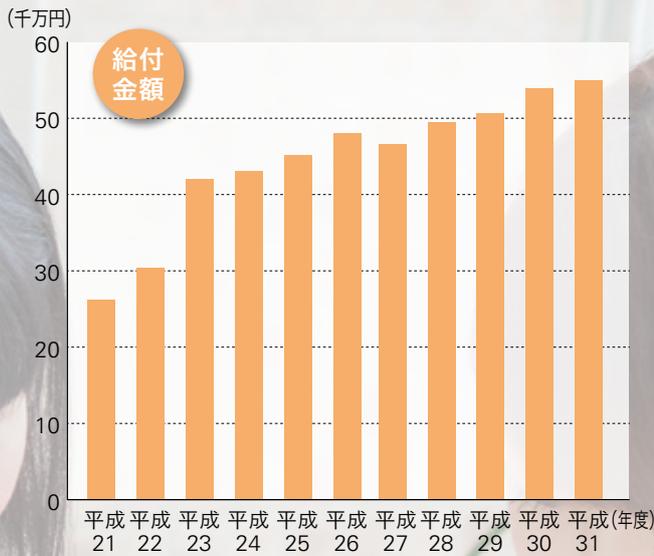
高校生活最後の一年間は受験勉強に全力で取り組みました。目標とする大学に入学するために必要となる学力と、自分自身の学力の差を埋めるための計画を立て、それに従って勉強を進めていました。学校の授業でも受験を視野に入れた講義や演習が多数行われていたため、集中して取り組みました。受験勉強のなかで、計画を立てそれを実行する力が身につきました。行き当たりばったりの勉強をするのではなく、計画を立てることで現在しなければならないことが明確になり、モチベーションを保ち続けられるということが

分かりました。

また、共に受験勉強に励む仲間の存在は私にとって非常に重要なものであり、心が折れそうになった時も踏ん張ることができました。受験勉強で培った計画を遂行する力は、社会に出た時にも役に立つものだと思います。

このような経験を活かし、将来は高校の教員になって、学ぶことの楽しさや喜びを生徒に伝えることを今後の目標とし、大学で一層勉学に励みたいと思っています。

(M.I)



この度は修学支援奨学金学生に採用していただき、誠にありがとうございます。奨学生に選んでいただいたことで、学習に対する意識も高まり、何事にも前向きな気持ちで取り組んでいます。

私は柔道整復師を目指しています。小学1年生から中学3年生まで野球に打ち込み、高校の3年間はラグビー部に所属しておりました。野球やラグビーの時、それぞれ違う怪我で柔道整復師の方にお世話になり、その時に手厚い治療と前向きなアドバイスをいただいたおかげで、野球・ラグビーを最後まで悔いなく続けることができました。そういう経験があり、私はスポーツに関わる仕事がしたい、人の手助けがしたいと思って、この資格を取りたいと思いました。

給付していただいたお金は、海外での研修のために今は母に預けています。大切にに使わせていただきます。本当にありがとうございました。

(T.H)



私は毎日休まずに学校に行き、勉強を頑張っています。私は商業科なので、特に検定の勉強に力を入れ、全種目1級を目指してやっています。学校の授業は真面目に聞き、家庭学習も毎日やって、しっかり理解できるまで勉強するようにしています。私はバレーボール部に所属していましたが、3年生になり引退をしたので、これからは勉強に今まで以上に力を入れて、しっかりやっていきたいと思っています。

私は卒業後、大学に進学したいと思っていますが、

大学進学にすると多くのお金が必要になります。私は進学するためのお金に余裕がないので、進学するかどうか迷っています。私は奨学金を自分の進路の実現のために使いたいと思っています。これからもさまざまなことに挑戦し、どんなことに一生懸命取り組んでいきます。そして自分の夢を見つけて、それを実現できるように頑張っていこうと思います。

(C.U)

# PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワード

ボランティア・スピリット・アワードは、地域社会の為に日々ボランティア活動に励む中学生、高校生を応援するプログラムで、1995年よりアメリカでスタートし、日本では2020年で24回目を迎えます。

アワードの  
3つの柱

## ボランティア・スピリット・アワードの3つの柱は、 「称える」「交流する」「発信する」



称える

11月のブロック表彰式、12月の全国表彰式では、いつも地域のためにボランティア活動に取り組んでいる皆さんに、感謝の気持ちを込めて、「ありがとう」の言葉を贈ります。



交流する

表彰式は「出会いの場」。参加者同士が交流し、情報を交換してネットワークを広げるためのプログラムが用意されています。多くの仲間と出会い、新しいつながりを作り、今後の活動に役立ててください。



受賞者の  
活動をまとめた  
活動紹介冊子



ホームページで  
仲間の活動をCheck!

発信する

応募用紙に記載されたり、表彰式などで発表された皆さんの活動内容を活動報告書やホームページを通じて、社会に広く発信しています。

- 主催：ジブラルタ生命保険／プルデンシャル生命保険／プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険／日本教育新聞社
- 後援：文部科学省／日本赤十字社
- お問い合わせ先：ボランティア・スピリット・アワード 事務局 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー 電話 03-5501-5364
- ボランティア・スピリット・アワードホームページ：http://www.vspirit.jp/

新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年のブロック表彰式は中止といたします。全国表彰式は、オンライン形式での開催を検討しています。

## ジブラルタ生命は未来を担う子どもたちを応援しています。

生命  
保険初!

ジブラルタ生命がお届けする

### ベルマーク付き保険

社団法人 日本PTA全国協議会 推薦

新規ご契約  
1件につき100点



ベルマーク付きで日本PTA全国協議会の推薦商品となっている生命保険商品は  
ジブラルタ生命が業界初&業界唯一です。(2020年4月現在)

●2004年7月…ベルマーク付き生命保険を生命保険会社で初めて販売開始。 ●2010年10月…生命保険商品として初めて日本PTA全国協議会の推薦取得。



子どもたちの夢と希望を応援する  
「Magic of the Dream」

ジブラルタ生命は「Magic of the Dream」をコンセプトに、未来を担う子どもたちの夢や希望を応援する活動に積極的に取り組んでいます。その根底には、子どもたちの「夢を叶える力」「感動」や「驚き」を得られる体験をプレゼントし、「希望にあふれる未来」への架け橋となりたい、との想いが込められています。各活動には、全国各地の社員がボランティアスタッフとして積極的にに関わり、子どもたちにエールをおくっています。



ジブラルタ生命特別協賛



#### ドリーム・スクール・キャラバン

プロからの直接指導に「ドキドキ」「ワクワク」全国の小学生を対象に、47都道府県を2年かけてキャラバンしていく本プログラムでは、スポーツや文化活動などさまざまな教室を実施し、たくさんの子供たちに夢のような時間をプレゼントしていきます。2020年は「走りup! 教室」「バスケボール教室」「体操教室」の3種目を、24道府県で実施予定です。



ジブラルタ生命協賛

#### 数学オリンピック

公益財団法人 数学オリンピック財団への協賛を通じて、数学的才能に恵まれた子どもたちをコンテストで励まし、才能を伸ばす手助けや交流の場の創出に協力しています。



ジブラルタ生命協賛

#### ドリームナイト・アット・ザ・ズー

来園者をおもてなし! 障がいのある子どもたちとそのご家族を動物園や水族館に招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらおう国際的なイベント、ドリームナイトアットザズー。当社は、2012年からこのイベントを実施している動物園・水族館をサポートしています。イベント開催日には、社員ボランティアが着ぐるみ(フォーマンスや園内の案内・誘導等)イベント運営を手伝うほか、フェイスシールドサービス、スタンパリーなどのオリジナル企画で来園者をもてなします。



ジブラルタ生命ほか主催

#### PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY (通称:SOC) ボランティア・スピリット・アワード

ボランティアに取り組み中学生・高校生を応援!  
SOCボランティアスピリットアワードは、ボランティアに取り組み中学生・高校生を応援するプログラムで、1995年にアメリカでスタートしました。日本では1997年から開催され、今では世界各国で行われる国際的なプログラムとなっています。SOCでは、青少年たちのボランティアへの取り組みを称え、「ありがとう」という言葉とともに感謝の気持ちを贈ります。また、参加者同士が出会い、お互いの活動を知り、交流を深めるためのさまざまな交流プログラムを用意しています。(後援：文部科学省 日本赤十字社)



ジブラルタ生命保険株式会社は、公益財団法人日本教育公務員弘済会の  
共済事業(提携保険事業)の提携会社として、60年以上にわたる提携を  
通じて教職員の皆様の福祉向上をお手伝いさせていただいております。

<https://www.gib-life.co.jp/>

ジブラルタ生命 検索

(本広告の掲載内容に関する問い合わせ先) ジブラルタ生命保険株式会社 提携団体チーム TEL:03-5501-6520

## 日教弘ライフサポート倶楽部のサービス情報

日教弘ライフサポート倶楽部 利用者様限定



がんばる自分に 選べるe-GIFT  
ご褒美を! プレゼントキャンペーン



毎月 2,000円分のギフトを  
200名にプレゼント!

合計  
1,200名  
に当たる!



「選べるe-GIFT」とは?

全日空商事株式会社が提供するマルチギフトサービスです。  
豊富な電子マネーからユーザーが自由に好きなものを選べるのが魅力的!

「選べるe-GIFT」については

<https://www.anatc-gift.com/use/>  
よりご確認ください。

### 選べるe-GIFT ● プレゼントキャンペーン 応募方法

**Step1** ライフサポート倶楽部のホームページ「メンバースナビ」へアクセス  
<https://w7.lifesc.com/>



**Step2** ログインIDとパスワードを入力後、「ログイン」をクリック

スマホの場合



IDは  
会員証の  
この番号

※初回ログインの場合、パスワードは会員番号下8桁となります。

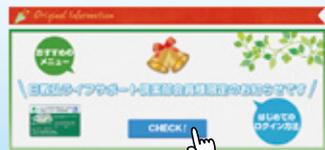
パソコンの場合



キャンペーンは  
このバナーが  
目印!

**Step3**

「インフォメーション」をクリック



お問合せ ▶ リソルキャンペーン事務局 ☎ 0120-330-278 (平日9:00~18:00 土日祝休み)

●東京海上日動は、公益財団法人日本教育公務員弘済会の福祉事業「教弘まなびやスーパープラン」「教弘フルガード」「教職員収入ロングウェイサポート」の引受保険会社です。

# READY TO GO!

その挑戦が、未来を変える。

## 東京海上日動



TOKYO 2020  
OLYMPIC GAMES



TOKIOMARINE  
NICHIDO



TOKYO 2020  
PARALYMPIC GAMES

東京2020 ゴールドパートナー (損害保険)



## 日教弘マークについて

公益財団法人 日本教育公務員弘済会<略称：(公財)日教弘>は、  
都道府県を含む総称を「教弘」としていることから、  
アルファベットの「K」がそのイニシャルです。  
「K」を中心にした楕円形は、日教弘本部・支部が一致協力して事業推進していることを象徴しています。  
全体のイメージは、未来への飛躍を展望したものです。



公益財団法人 日本教育公務員弘済会 <http://www.nikkyoko.or.jp>